

平成29年度
川口市教育委員会事務点検・外部評価報告書
(平成28年度実施事業)

川口市教育委員会

も く じ

■ はじめに

1 趣 旨	—	1
2 目 的	—	1
3 外部評価の対象	—	1
4 外部評価の方法	—	1
5 評 価	—	1
6 外部評価結果	—	2
7 今後の取り組み	—	2
8 平成29年度外部評価委員	—	2

■ 平成29年度評価結果一覧

— 3

■ 事務点検・外部評価調書

— 4

基本目標 I

指標(1) “他者との関係”における小学校1年生児童の育ちの傾向	—	5
指標(2) 将来の夢や目標を持っていると回答した児童生徒の割合	—	7
指標(3) 埼玉県学力・学習状況調査において平成27年度の 小学校4年生が埼玉県平均正答率を上回った項目数の割合	—	9
指標(4) 中学生・高校生海外派遣事業への応募者数	—	11
指標(5) 特別支援学級設置校数	—	13
指標(6) 全国学力学習状況調査の質問紙のうち、 自尊感情、規範意識を示す割合	—	15
指標(7) 人権感覚育成プログラムを校内研修で使用した割合	—	17
指標(8) 小児生活習慣病予防検診対象者の割合	—	19
指標(9) 体力テストの全国平均を上回っている 項目数の割合(小学校6年生、中学校3年生)	—	21
指標(10) 高等学校卒業後、大学への進学者の割合	—	23

基本目標Ⅱ

指標(1)	教育研修生「教育指導パワーアップ研修」受講修了者の割合	—	2 5
指標(2)	児童生徒の交通事故発生件数	—————	2 7
指標(3)	いじめの解消率	—————	2 9
指標(4)	不登校児童生徒の割合	—————	3 1
指標(5)	各学校における「学校応援団平均活動回数」(年間)	—————	3 3

基本目標Ⅲ

指標(1)	生涯学習施設の年間利用者数	—————	3 5
指標(2)	公民館及び専門施設の年間講座参加者数	—————	3 7
指標(3)	図書館年間利用者数(入館者数)	—————	3 9
指標(4)	科学館の年間利用者数	—————	4 1
指標(5)	スポーツ施設の年間利用者数	—————	4 3
指標(6)	人材の登録者数	—————	4 5
指標(7)	アートギャラリーの年間利用率	—————	4 7

基本目標Ⅳ

指標(1)	文化財センター及び分館への年間来館者数	—————	4 9
指標(2)	古文書・写真等資料の収蔵点数	—————	5 1

基本目標Ⅴ

指標(1)	新市立高等学校建設における工事日程の進捗率	—————	5 3
-------	-----------------------	-------	-----

はじめに

1 趣 旨

平成19年6月に、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が一部改正され、平成20年4月から、全ての教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととされました。

併せて、点検及び評価を行うに当たり、教育に関する学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされています。

この報告書は、同法の規定に基づき、川口市教育委員会が行った事務点検・外部評価（以下「外部評価」という。）の結果をまとめたものです。

2 目 的

川口市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況を自ら点検評価し、効果的な教育行政の推進に資すること、並びにその結果を公表し市民への説明責任を果たしていくことを目的としています。

3 外部評価の対象

川口市教育委員会では、本市の教育の振興を総合的かつ計画的に推進していくための指針である「川口市教育大綱」に基づいて、「川口市教育振興基本計画」を策定しました。計画の推進にあたりましては、25の指標を掲げており、この指標を外部評価の対象としました。

4 外部評価の方法

25項目の評価指標に対する内部評価に基づき、外部評価会議において、学識経験者等からの評価を受けました。

5 評 価

「28年度の実施状況」、「29年度以降の取り組み」及び「指標の達成状況」の内容等を総合的に判断し、次のA～Dの4つの区分としました。

「A」…基本目標の目的実現に向けて28年度の目標は達成されている。

「B」…基本目標の目的実現に向けて28年度の目標は概ね達成されている。

「C」…上記Bと比較して達成状況は低い。

「D」…基本目標の目的実現に向けて28年度の目標はほとんど達成されていない。

6 外部評価結果

外部評価結果では、全25指標の内、「A：達成されている」との評価が10指標、「B：概ね達成されている」との評価が15指標でありました。

7 今後の取り組み

川口市教育委員会では、今回の結果及び意見等をふまえ、本市教育行政のさらなる発展を目指し、具体的な取り組みを進めていきます。

8 平成29年度外部評価委員

(50音順 敬称略)

氏名	備考
久保村里正	文教大学 教育学部 教授
小林博武	川口市退職校長会
高野善夫	川口市PTA連合会

平成29年度 評価結果一覧

基本目標No.	指標No.	指標名	主管課	平成29年度									
				内部評価 (職員における評価)				外部評価					
				(A) 達成されている	(B) 概ね達成されている	(C) 達成状況は低い	いほとんど達成されていない(D)	(A) 達成されている	(B) 概ね達成されている	(C) 達成状況は低い	いほとんど達成されていない(D)		
基本目標Ⅰ 子どもがのびのび学べる環境づくり													
Ⅰ	(1)	“他者との関係”における小学校1年生児童の育ちの傾向	指導課		○					○			
	(2)	将来の夢や目標を持っていると回答した児童生徒の割合	指導課		○					○			
	(3)	埼玉県学力・学習状況調査において平成27年度の小学校4年生が埼玉県平均正答率を上回った項目数の割合	指導課		○					○			
	(4)	中学生・高校生海外派遣事業への応募者数	指導課		○					○			
	(5)	特別支援学級設置校数	指導課	○						○			
	(6)	全国学力学習状況調査の質問紙のうち、自尊感情、規範意識を示す割合	指導課		○					○			
	(7)	人権感覚育成プログラムを校内研修で使用した割合	指導課	○						○			
	(8)	小児生活習慣病予防検診対象者の割合	学校保健課	○						○			
	(9)	体力テストの全国平均を上回っている項目数の割合(小学校6年生、中学校3年生)	指導課	○						○			
	(10)	高等学校卒業後、大学への進学者の割合	学務課		○					○			
基本目標Ⅱ 子どもの成長をサポートする基盤づくり													
Ⅱ	(1)	教育研修生「教育指導パワーアップ研修」受講修了者の割合	指導課		○					○			
	(2)	児童生徒の交通事故発生件数	指導課		○					○			
	(3)	いじめの解消率	指導課		○					○			
	(4)	不登校児童生徒の割合	指導課		○					○			
	(5)	各学校における「学校応援団平均活動回数」(年間)	指導課		○					○			
基本目標Ⅲ 市民が自己実現をめざせる環境づくり													
Ⅲ	(1)	生涯学習施設の年間利用者数	生涯学習課	○						○			
	(2)	公民館及び専門施設の年間講座参加者数	生涯学習課	○						○			
	(3)	図書館年間利用者数(入館者数)	中央図書館		○					○			
	(4)	科学館の年間利用者数	科学館		○					○			
	(5)	スポーツ施設の年間利用者数	スポーツ課		○					○			
	(6)	人材の登録者数	文化推進室		○					○			
	(7)	アートギャラリーの年間利用率	文化推進室		○					○			
基本目標Ⅳ 地域におけるさまざまな資源の活用													
Ⅳ	(1)	文化財センター及び分館への年間来館者数	文化財課	○						○			
	(2)	古文書・写真等資料の収蔵点数	文化財課	○						○			
基本目標Ⅴ 教育行政経営の基盤強化													
Ⅴ	(1)	新市立高等学校建設における工事日程の進捗率	学務課	○						○			
計				9	16	0	0	10	15	0	0		

事務点検・外部評価調書

基本目標Ⅰ 子どもがのびのび学べる環境づくり

指標(1) “他者との関係”における小学校1年生児童の育ちの傾向

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (H32)	教育振興 基本計画 の頁
<p>「幼児期の教育との円滑な接続に関するアンケート」における、“他者との関係”（県推進“子育ての目安『3つのめばえ』”）に関する4項目についての割合。</p> <p>幼児期は生涯にわたる人格の基礎を形成する大切な時期であり、教育活動の充実を図る必要があることから、この指標を設定した。</p>	<p>小学校1年生児童の“他者との関係”における現状について、各項目の達成が8割に満たない状況である。幼児期において、人との関わり方を身につけさせることは重要であることから、この目標値を設定した。</p>	<p>小学校1年生 「身につけている、ほぼ身につけている」</p> <p>物を大切にする →75%</p> <p>コミュニケーションをとる →78.8%</p> <p>返事やあいさつをする →71.2%</p> <p>がまんをする →51.9%</p>	<p>小学校1年生 「身につけている、ほぼ身につけている」</p> <p>物を大切にする →80%</p> <p>コミュニケーションをとる →80%</p> <p>返事やあいさつをする →80%</p> <p>がまんをする →80%</p>	28

2 8 年 度 の 実 施 状 況

①実施時期	H28. 4. 1～H29. 3. 31
②実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 市内全小学校に「子育ての目安『3つのめばえ』」家庭向けリーフレットを配布し、内容の理解及び活用の重要性について周知を図った。 学校訪問、要請訪問、市教職員研修において、道徳教育、特別活動、ライフスキルかわぐちなど、豊かな心の育成についての教員の指導力向上を図った。
③実施結果	<p>目標値を設定し1年間様々な機会をとらえ、上記のような取り組みを行ってきた。昨年度6月末から7月はじめに埼玉県教育委員会からの依頼で実施した川口市内全小学校1年生対象の「幼児期の教育との円滑な接続に関するアンケート調査」によると、「物を大切にする 76.9%」「返事やあいさつをする 76.9%」「がまんをする 61.5%」については、ほぼ目標値を達成し、成果がみられた。しかし「コミュニケーションをとる 75%」については現状値をやや下回り、取り組みの工夫改善が必要である。</p>

2 9 年 度 以 降 の 取 り 組 み

①実施時期	H29. 4. 1～H30. 3. 31
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	<ul style="list-style-type: none"> 学校訪問、要請訪問時に、全教育課程を通して豊かな心の育成を図るための指導を更に徹底するよう指導にあたる。 学校だけでなく家庭での取組を促進するため、保護者会やHP、学校だより等を活用し、積極的に家庭教育の必要性を啓発し、保護者や地域の理解と協力を得られるよう連携を図りながら目標値達成を目指す。

集計年度	H28	H29	H30	H31	H32
	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
毎年度	物を大切にする →76% コミュニケーションをとる →79% 返事やあいさつをする →76% がまんをする →60%	物を大切にする →77% コミュニケーションをとる →79.5% 返事やあいさつをする →77% がまんをする →65%	物を大切にする →78% コミュニケーションをとる →79.5% 返事やあいさつをする →78% がまんをする →70%	物を大切にする →79% コミュニケーションをとる →80% 返事やあいさつをする →79% がまんをする →75%	物を大切にする →80% コミュニケーションをとる →80% 返事やあいさつをする →80% がまんをする →80%
	物を大切にする →76.9% コミュニケーションをとる →75% 返事やあいさつをする →76.9% がまんをする →61.5%				

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	B	結果から、「物を大切にする」「返事やあいさつをする」「がまんをする」について、ほぼ目標値を上回った。しかし「コミュニケーションをとる」については現状値、目標値を若干下回ったのでBと評価した。
	前回評価	

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	B	「コミュニケーションをとる」という項目においてのみ、実績値が目標値を下回っていることから、評価はBとする。 今後は、学校教育のさらなる取り組み、併せて、家庭教育との連携が必要である。指標の一つの「がまんをする」という項目は、他の項目を含む広義の内容であることから、他の項目と同様に目標値を達成することが難しいと思われる。
	前回評価	

基本目標Ⅰ 子どもがのびのび学べる環境づくり

指標(2) 将来の夢や目標を持っていると回答した児童生徒の割合

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (H32)	教育振興 基本計画 の頁
<p>全国学力・学習状況調査の質問紙調査において「将来の夢や目標を持っている」という質問に「当てはまる」又は「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合。</p> <p>一人ひとりを確実に伸ばす教育を推進することが、将来の夢や目標を描ける児童生徒が増えることにつながることから、この指標を設定した。</p>	<p>一人ひとりを確実に伸ばす教育を推進することにより、全国トップレベルの水準になることをめざして、この目標値を設定した。</p>	<p>小学校6年生 88.0%</p> <p>中学校3年生 70.6%</p>	<p>小学校6年生 90%</p> <p>中学校3年生 80%</p>	30

2 8 年 度 の 実 施 状 況

①実施時期	H28. 4. 1～H29. 3. 31
②実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学校訪問、要請訪問、市教職員研修において、特別活動、総合的な学習の時間、ライフスキルかわぐちの実施など、進路・キャリア教育について教員へ指導の充実を図るよう指導・助言をした。 ・川口の元気夢わーく体験事業では、市内26全中学校において、1年生または2年生が、市内の事業所・施設等で、3日間の社会体験活動(職場体験活動、福祉体験活動)を行った。
③実施結果	<p>指標としている全国学力・学習状況調査の結果(平成28年4月実施の調査結果)において、質問事項「将来の夢や目標を持っていますか」では、小学校86.2%、中学校73.9%であった。</p>

2 9 年 度 以 降 の 取 り 組 み

①実施時期	H29. 4. 1～H30. 3. 31
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動、総合的な学習の時間、ライフスキルかわぐちにおいては、将来の夢・希望の指導において要となる教科等となることから、学校訪問・要請訪問等で適切に指導・助言を行う。 ・徳力向上推進委員会で先進的な研究を一層進め、市内に広めていく機会を拡充していく。その際、将来の夢や目標に関わる指導をどの教科・領域等で行うか年間計画に位置づける等の視点も入れていく。 ・働くことの意義や好ましい職業観を育成するため、川口の元気夢わーく体験事業において、発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育や職場体験を継続して実施する。

集計年度	H28	H29	H30	H31	H32
	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
毎年度	小学校6年生 88.0% 中学校3年生 72.0%	小学校6年生 88.5% 中学校3年生 74.0%	小学校6年生 89.0% 中学校3年生 76.0%	小学校6年生 89.5% 中学校3年生 78.0%	小学校6年生 90% 中学校3年生 80%
	小学校6年生 86.2% 中学校3年生 73.9%				

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	B	全国学力・学習状況調査（平成28年4月実施の調査結果）より、将来の夢や目標を持っているかを問う質問事項において、小学校では、目標値88.0%に対して実績値86.2%と若干下回ったものの、中学校においては目標値72.0%に対して実績値73.9%と上回っており、概ね目標を達成したと言える。
	前回評価	

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	B	小学生の実績値は現状値よりも下がり、かつ目標値も下回っているが、中学生の実績値は目標値を上回っており、相対的には目標は概ね達成されていることから、評価はBとする。 川口の元気夢わーく体験事業は、生徒が働く意義や仕事のやりがいを学ぶことができ、将来の夢や目標を持つ上で非常に有意義な事業である。また、学校教育の場においては、子供たちにとって身近な大人である教員が、自身の体験を通して、夢や目標を語ることも効果的だと考える。
	前回評価	

基本目標Ⅰ 子どもがのびのび学べる環境づくり

指標(3) 埼玉県学力・学習状況調査において平成27年度の
小学校4年生が埼玉県平均正答率を上回った項目数の割合

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (H32)	教育振興 基本計画 の頁
埼玉県学力・学習状況調査において平成27年度の小学校4年生が埼玉県平均正答率を上回った項目数の割合(国語、算数)。 経年変化を見ることで、本市の学力を測るため、この指標を設定した。	本市の平成27年度の小学校4年生が、埼玉県平均正答率を上回った項目数の割合は、国語では、66.7%、算数では、58.3%である。 学力向上へ向けた取り組みを推進することで、毎年この割合を伸ばしていくことをめざして、目標値を設定した。	小学校4年生 (平成27年度) 国語66.7% 算数58.3%	毎年前年度を上回る。	32

28年度の実施状況

①実施時期	H28. 4. 1～H29. 3. 31
②実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 各学校において学力向上に関する児童生徒の実態を把握し、学力向上のPDCAサイクルの確立に向け取り組んだ。 学力向上推進事業として漢字チャレンジ検定を全小学校で実施した。 放課後や長期休業中を活用した補充学習を実施した。
③実施結果	平成28年4月に実施した埼玉県学力・学習状況調査において、平成28年度の5年生児童の調査結果で埼玉県平均正答率を上回った項目は、国語では30項目中23項目あり、76.6%が上回った。算数では、32項目中13項目あり、40.6%が上回った。

29年度以降の取り組み

①実施時期	H29. 4. 1～H30. 3. 31
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	<ul style="list-style-type: none"> 各学校における学力向上検証改善サイクルを確立する。 漢字チャレンジ検定を全中学校(1年生は悉皆、2・3年生は希望)で実施する。 学力保障スクラム事業や「考え、話し合い、学び合う学習」に関する研究の成果を市内の各小中学校に広めていく。

集計年度	H28	H29	H30	H31	H32
	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
毎年度	前年度の数値 国語66.7% 算数58.3% を上回る 【学力の伸び】 県平均以上	前年度の数値を上 回る 【学力の伸び】 県平均以上	前年度の数値を上 回る 【学力の伸び】 県平均以上	前年度の数値を上 回る 【学力の伸び】 県平均以上	毎年前年度を 上回る
※ 〔 〕内は、当初の指標 にはないが、調査の 性質から【学力の伸び】 を指標に追加したもの	国語76.6% 算数40.6% 【学力の伸び】 国語 4 算数 3				

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	B	前回評価

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	A	前回評価

基本目標Ⅰ 子どもがのびのび学べる環境づくり

指標(4) 中学生・高校生海外派遣事業への応募者数

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (H32)	教育振興 基本計画 の頁
中学生・高校生を海外に派遣したり、外国の生徒の受入れを行ったりすることにより豊かな国際感覚と日本人としての自覚と責任を身に付け、グローバル社会に貢献できる人材を育成することが大切であることから、この指標を設定した。	グローバル社会で活躍するには、まず世界に目を向けることが原点であることから、中学生・高校生海外派遣事業への応募者を現状から10パーセントの増加をめざして、この目標値を設定した。	中学生 77人 高校生 42人	中学生 85人 高校生 46人	34

2 8 年 度 の 実 施 状 況

①実施時期 派遣時期 中学生H28 7月27日～8月5日 高校H28 7月21日～8月11日

②実施内容

- 【中学生一次選考（作文審査）】4月19日（火） ※1次選考委員会4月21日（木）
- 【中学生二次選考（面接）】5月15日（日）
- 【中学生二次選考委員会（派遣生18名を決定）】5月18日（水）
- 【高校生一選考（作文審査）】4月14日（木） ※1次選考委員会4月21日（木）
- 【高校生二次選考（面接）】5月8日（日）
- 【高校生二次選考委員会（派遣生15名を決定）】5月11日（水）

③実施結果

中学生に関しては例年とほぼ同数の応募であったが、高校生は目標値を大きく上回る応募があった。学校への周知の時期を早めたことや、新市立高校の説明会等でのアナウンスなどが応募の増加につながったと考えられる。

2 9 年 度 以 降 の 取 り 組 み

①実施時期 派遣時期 中学生H29 7月26日～8月4日 高校生H29 7月21日～8月11日

②見直し等が必要な事項、また見直した事項

小学校外国語活動の教科化、グローバル化の進展に伴う英語への需要の高まりからも応募総数の増加が見込まれることから、各学校への周知時期をさらに早めることや、中学・高校ともに可能な限り応募期間を延長することでさらなる応募数の増加につなげていく。

集計年度	H28	H29	H30	H31	H32
	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
毎年度	中学生 79人 高校生 43人	中学生 81人 高校生 44人	中学生 82人 高校生 45人	中学生 83人 高校生 45人	中学生 85人 高校生 46人
	中学生 72人 高校生 66人				

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	B	中学生に関しては目標値より7名少ない72名の応募があった。高校生は目標値の43名を大きく上回る66名の応募があった。高校生に関しては、学校への周知の時期を早めたことに加え、実施要綱を公民館や市の行政センターなど市民が多く訪れる箇所にも幅広く配布したことが応募の増加につながったと考えられる。
	前回評価	

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	B	海外派遣事業の応募者数において、中学生は目標値を若干下回ったが、高校生は目標値を大きく上回っており、目標は概ね達成されているので、評価はBとする。 海外派遣事業の応募者数増加のためには、募集の周知方法について工夫するとともに、生徒の国際社会への興味・理解を育んでいくことが必要である。
	前回評価	

基本目標Ⅰ 子どもがのびのび学べる環境づくり

指標(5) 特別支援学級設置校数				
指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (H32)	教育振興 基本計画 の頁
<p>国や県のインクルーシブ教育システム構築の政策のひとつに、「多様な学びの場」の充実が挙げられている。特別な支援を必要とする児童生徒が地元の小・中学校で学ぶ環境をつくるためにも、特別支援学級の設置促進は重要であることからこの指標を選定した。</p>	<p>川口市は拠点校方式により、特別な支援を必要とする児童生徒が、課題克服に向けて少人数で効果的に学ぶことをめざしている。</p> <p>インクルーシブ教育システムの構築に向けた特別支援教育を推進するためにも設置率50%をめざして、今後も適正規模、適正配置をめざし計画的に設置を進めていく。</p>	<p>小学校16校 中学校11校</p>	<p>小学校26校 中学校13校</p>	36

2 8 年 度 の 実 施 状 況

①実施時期	H28. 4. 1～H29. 3. 31
②実施内容	<p>市内全体において、対象となる児童生徒数の推移を適切に把握しながら、学務課、教育総務課等関係他課との連携を図り、特別支援学級設置を計画的に推進した。</p> <p>該当小・中学校長からの聞き取りを行うとともに、適宜計画的に学校訪問を行い、特別支援学級設置に向けた施設面や教育経営面についての配慮事項について指導を行い、円滑な設置に努めた。</p>
③実施結果	<p>里小学校、在家中学校、計2校に特別支援学級の設置の決定を行い、市内全体における設置校数は小学校17校、中学校12校となった。</p>

2 9 年 度 以 降 の 取 り 組 み

①実施時期	H29. 4. 1～H30. 3. 31
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	<p>今後も当面、2校ずつの特別支援学級の設置を進め、目標値の達成に努める。</p> <p>平成29年度については、小学校2校、平成30年度については、小・中学校1校ずつ、設置の準備を行い、まずは、平成30年度中の中学校の設置率50%の達成を目指す。</p>

集計年度	H28	H29	H30	H31	H32
	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
毎年度	小学校17校 中学校12校	小学校19校 中学校12校	小学校20校 中学校13校	小学校23校 中学校13校	小学校26校 中学校13校
	小学校17校 中学校12校				

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	A	<p>当初の計画通り、小学校に1校、中学校に1校、特別支援学級を設置することができ、適正な設置にむけて目標が達成できたため。</p>
	前回評価	

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	A	<p>すべての児童生徒が充実した学校生活を送るために、特別支援学級設置校の増加が計画的に推進されていることは高く評価できる。また、実績値は目標値に達しているので、評価はAとする。</p> <p>一方で、特別支援学級の設置には、知識や経験が豊かな教員や補助員を配置することも重要であるので、設置校数の増加に加えて、人員の確保にも努めてほしい。</p>
	前回評価	

基本目標 I 子どもがのびのび学べる環境づくり

指標(6) 全国学力学習状況調査の質問紙のうち、自尊感情、規範意識を示す割合

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (H32)	教育振興 基本計画 の頁
<p>全国学力学習状況調査で実施している質問紙の中の「自分には、よいところがあると思いますか」「学校のきまり(規則)を守っていますか」の項目について「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合。</p> <p>自尊感情、規範意識を高めることが、豊かな心を育むことにつながることから、この指標を設定した。</p>	<p>2項目ともに、市内平均は、県平均、全国平均に及ばない現状である。</p> <p>全国平均より高い数値となっている県平均を基準とし、県平均を上回る目標値とした。</p>	<p>「自分には、よいところがあると思いますか」</p> <p>小学校 74% 中学校 64%</p> <p>「学校のきまり(規則)を守っていますか」</p> <p>小学校 90.2% 中学校 91.5%</p>	<p>「自分には、よいところがあると思いますか」</p> <p>小学校 80% 中学校 70%</p> <p>「学校のきまり(規則)を守っていますか」</p> <p>小学校 95% 中学校 95%</p>	38

2 8 年 度 の 実 施 状 況

①実施時期 H28. 4. 1～H29. 3. 31

②実施内容

- ・徳力向上推進委員会(平成27年度)による研究冊子「川口の道徳～健全な自尊感情の育成と道徳教育～(平成28年3月)」を市内全教員に配布した。市内教職員研修(平成28年度第2回道徳教育推進研修会)、学校訪問、要請訪問で内容の周知を図り、活用を促した。
- ・学校訪問、要請訪問、市教職員研修において、道徳教育、特別活動、ライフスキルかわぐち、読書活動など、豊かな心の育成についての教員の指導力向上を図った。
- ・「川口市道徳の日(10月9日)」の前後に各小・中学校で道徳の授業公開などを行うとともに、市役所に各校の取り組みを掲示し広く市民に発信し、道徳教育の充実を図った。

③実施結果

指標としている全国学力学習状況調査の結果(平成28年4月実施の調査結果)において、質問事項「自分にはよいところがあると思いますか」(自尊感情)では小学校72.4%、中学校66.1%、質問事項「学校のきまり(規則)を守っていますか」(規範意識)では小学校93.0%、中学校95.4%であった。

2 9 年 度 以 降 の 取 り 組 み

①実施時期 H29. 4. 1～H30. 3. 31

②見直し等が必要な事項、また見直した事項

道徳教育について、より各学校の道徳教育を充実し豊かな心の育成を図るため、道徳に係る研修の対象者、内容、回数改善を図る。具体的には、今までも行ってきた主に各校の中核となる道徳教育推進教師を対象とした道徳教育推進研修会の他に、新たに若手教員を対象とし授業力の向上を図るための道徳授業研修会を新設し、実施する。

集計年度	H28	H29	H30	H31	H32
	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
毎年度	「自分には、よいところがあると思いますか」 小学校 75% 中学校 66%	「自分には、よいところがあると思いますか」 小学校 76% 中学校 67%	「自分には、よいところがあると思いますか」 小学校 77% 中学校 68%	「自分には、よいところがあると思いますか」 小学校 78% 中学校 69%	「自分には、よいところがあると思いますか」 小学校 80% 中学校 70%
	「学校のきまり（規則）を守っていますか」 小学校 92% 中学校 92%	「学校のきまり（規則）を守っていますか」 小学校 93% 中学校 93%	「学校のきまり（規則）を守っていますか」 小学校 94% 中学校 94%	「学校のきまり（規則）を守っていますか」 小学校 95% 中学校 95%	「学校のきまり（規則）を守っていますか」 小学校 95% 中学校 95%
	「自分には、よいところがあると思いますか」 小学校 72.4% 中学校 66.1%				
	「学校のきまり（規則）を守っていますか」 小学校 93.0% 中学校 95.4%				

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	B	<p>全国学力学習状況調査（平成28年4月実施の調査結果）より、自尊感情を問う質問事項において、小学校では、目標値75%に対して実績値72.4%と若干下回った。中学校では、目標値66%に対して実績値66.1%と若干上回った。</p> <p>規範意識を問う質問事項において、小学校では、目標値92%に対して実績値93.0%と上回り、中学校でも、目標値92%に対して実績値95.4%と上回る値となった。以上のことから、自尊感情、規範意識とも概ね目標を達成したと言える。</p>
	前回評価	

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	B	<p>自尊感情の項目において、実績値は、小学校は目標値を下回ったが、中学校は目標値を上回っている。さらに、規範意識の項目では、双方とも目標値を上回っていることから、目標は概ね達成されており、評価はBとする。</p> <p>自尊感情の育成は非常に難しい課題であるが、小学生の実績値は県平均よりも低い数値なので、日常生活の中で教員が積極的に児童生徒を誉めるように心がけるなど、身近なところから自尊感情を育ててほしい。</p>
	前回評価	

基本目標Ⅰ 子どもがのびのび学べる環境づくり

指標(7) 人権感覚育成プログラムを校内研修で使用した割合				
指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (H32)	教育振興 基本計画 の頁
<p>市内小・中学校で人権感覚育成プログラムを使用した校内研修を実施した学校の割合。</p> <p>人権課題を解決するための基盤となる人権感覚を育成するため、指導内容・指導方法の改善を図る必要があることから、この指標を設定した。</p>	<p>人権感覚育成プログラムを実践した学校の割合は市内小・中学校ともに100%であるが、人権課題を解決するための基盤となる人権感覚を育成するためには、人権感覚育成プログラムの実施校数100%の維持とともに、実践の質の向上が必要である。このことから、市内すべての小・中学校における人権感覚育成プログラムを使用した校内研修の実施を目標とした。</p>	<p>小学校71% 中学校61%</p>	<p>小学校100% 中学校100%</p>	42

2 8 年 度 の 実 施 状 況	
①実施時期	H28. 4. 1～H29. 3. 31
②実施内容	<p>市内全教職員に配布の人権教育資料「人間であること」に、人権感覚育成プログラムの実践事例を掲載し紹介するとともに、「人権教育主任研修会」「人権教育理解研修会」において研修内容として扱った。各学校では、これを受け、人権感覚育成プログラムを校内研修で実施した。</p>
③実施結果	<p>小学校96%、中学校77%の実施率となった。</p>

2 9 年 度 以 降 の 取 り 組 み	
①実施時期	H29. 4. 1～H30. 3. 31
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	<p>特に、中学校での実施率の向上に努める。平成31年度には、100%が達成できるよう、平成29年度は80%の実施率の達成を目指す。</p>

集計年度	H28	H29	H30	H31	H32
	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
毎年度	小学校80% 中学校70%	小学校90% 中学校80%	小学校100% 中学校 90%	小学校100% 中学校100%	小学校100% 中学校100%
	小学校96% 中学校77%				

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	A	<p>人権感覚育成プログラムを実践した学校の割合が、小学校・中学校とも、当初の目標を超える値を達成できたため。</p>
	前回評価	

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	A	<p>小学校・中学校ともに、実績値が現状値よりも上がり、目標値を上回っているため、評価はAとする。 教職員が研修等から学び培った人権意識を、児童生徒に授業を通して伝え、人権意識を持った子どもを育成できるように、今後も引き続き努めてほしい。</p>
	前回評価	

基本目標 I 子どもがのびのび学べる環境づくり

指標(8) 小児生活習慣病予防検診対象者の割合				
指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (H32)	教育振興 基本計画 の頁
<p>定期健康診断の結果、肥満度30%以上の児童生徒を、小児生活習慣病予防検診の対象者としている。</p> <p>糖尿病や高血圧など、生活習慣病の低年齢化が進むその要因である肥満の解消は大きな課題である。</p> <p>生涯を健康に過ごすことができるよう、望ましい生活習慣を身に付け、検診対象の割合を低減していくことが重要である。</p>	<p>平成26年度実績の3割減とした。</p>	5.09%	3.50%	44

2 8 年 度 の 実 施 状 況	
①実施時期	H28. 4. 1～H29. 3. 31
②実施内容	<p>定期健康診断における身体測定の結果から、肥満傾向にある児童生徒に対し、生活指導を行う。</p> <p>また、肥満度30%以上の小学校4年生児童及び中学校1年生生徒のうち希望者を対象に、血液検査・血圧測定・医師の相談等を行う「小児生活習慣病予防検診」を実施し、その結果に応じ、医師の管理や保健指導等の対応を図る。</p>
③実施結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校4年生 (肥満度30%以上/児童数) 197人/5,105人 3.86% ・ 中学校1年生 (肥満度30%以上/生徒数) 226人/4,508人 5.01% ・ 小4・中1計 (肥満度30%以上/児童生徒数) 423人/9,613人 4.40%

2 9 年 度 以 降 の 取 り 組 み	
①実施時期	H29. 4. 1～H30. 3. 31
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	<p>小児生活習慣病予防検診対象児童生徒の受診率が低く、改善が必要と目される。生活習慣の改善には家庭の協力が不可欠なことから、検診受診及びその結果に基づく対応について、保護者との連携を図っていく。</p>

集計年度	H28	H29	H30	H31	H32
	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
毎年度	4.50%以下	4.25%以下	4.00%以下	3.75%以下	3.50%以下
	4.40%				

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	A	<p>現在実施している小児生活習慣病予防検診の対象学年である小学校4年生児童及び中学校1年生生徒のうち、肥満度30%以上となる児童生徒数の割合について、目標値である4.50%を下回る4.40%とすることができた。</p> <p>対象児童生徒に対し実施した小児生活習慣病予防検診では、小4児童112人、中1生徒53人が受診し、それぞれ受診率は、56.85%、23.45%となっている。受診結果により、要医療、経過観察と、適切な治療や生活習慣改善の指導等を行い、将来的な生活習慣病予防を図ることができた。</p>
	前回評価	

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	A	<p>実績値は現状値より下がり、かつ目標値を下回っていることから、小児生活習慣病の予防のための支援体制が成果をあげていると考え、評価はAとする。</p> <p>児童生徒の生活習慣の改善には、家庭の協力が必要不可欠なので、今後も引き続き、学校と家庭が連携して取り組んでいけるような支援を期待する。</p>
	前回評価	

基本目標Ⅰ 子どもがのびのび学べる環境づくり

指標(9) 体力テストの全国平均を上回っている項目数の割合
(小学校6年生、中学校3年生)

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (H32)	教育振興 基本計画 の頁
各学校が実施している体力テストにおいて、全国平均を上回る項目数の割合。 客観的な基準により、各学校及び児童生徒一人ひとりに応じた課題解決への取り組みや体力向上の状況を示す数値であることから、この指標を選定した。	体力テスト男女合計16種目のうち、小学校6年生で8種目以上、中学校3年生で11種目以上の平均値が、全国平均を上回ることをめざして、この目標値を設定した。	小学校6年生 44% 中学校3年生 63%	小学校6年生 45% 中学校3年生 65%	46

2 8 年 度 の 実 施 状 況

①実施時期	H28. 4. 1～H29. 3. 31							
②実施内容	測定項目 男女それぞれ8種目 ①握力②上体起こし③長座体前屈④反復横とび⑤20mシャトルラン⑥50m走 ⑦立ち幅跳び⑧ボール投げ *中学生は⑤「20mシャトルラン」については、「20mシャトルラン」か「持久走(男子1,500m・女子1,000m)」のどちらかを選択。							
③実施結果	*全国平均値と川口平均値との比較 市平均に○印がついている種目は、全国平均を上回った種目 【小学校 8/16種目・中学校 12/16種目、全国平均を上回った】							
	握力	上体起 こし	長座体 前屈	反復横 とび	20mシャ トルラン	50m 走	立ち幅 跳び	ボール 投げ
小6								
【男子】市	19.58	22.60○	36.29○	46.66○	61.10	8"89	166.65○	23.79
全	20.26	21.90	35.62	46.65	64.74	8"78	166.34	27.41
【女子】市	19.56	21.34○	42.04○	44.31○	48.85	9"12	160.05○	15.14
全	19.73	20.07	40.40	43.87	50.75	9"12	156.89	16.50
中3					持久走			
【男子】市	34.35	33.75○	51.54○	57.34○	6'00"11○	7"53	214.14○	24.38○
全	35.12	30.26	46.60	56.01	6'04"59	7"47	213.99	24.20
【女子】市	25.67○	28.92○	52.04○	49.86○	4'38"09○	8"63	176.70○	14.43
全	25.50	25.22	47.96	48.82	4'41"16	8"62	175.70	14.50

2 9 年 度 以 降 の 取 り 組 み

①実施時期	H29. 4. 1～H30. 3. 31
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	市内及び各学校の体力の現状と課題を年度当初の体育主任会で伝え、各学校が継続的・計画的に体力向上に取り組むよう指導した。特に小学校6年生、中学校3年生においては、最高学年として各学校の課題となる種目を中心に一層の体力向上の推進に取り組む。

集計年度	H28	H29	H30	H31	H32
	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
毎年度	小学校6年生 45% 中学校3年生 65%	小学校6年生 45% 中学校3年生 65%	小学校6年生 45% 中学校3年生 65%	小学校6年生 45% 中学校3年生 65%	小学校6年生 45% 中学校3年生 65%
	小学校6年生 50% 中学校3年生 75%				

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	A	<p>小学校では男女ともに、上体起こし・長座体前屈・反復横とび・立ち幅跳びの種目において、全国平均を上回ることができた。実績値としては、16種目中、8種目が全国平均を上回り、50%を達成することができた。</p> <p>中学校では男子は、上体起こし・長座体前屈・反復横とび・持久走・立ち幅跳び・ボール投げ、女子は、握力・上体起こし・長座体前屈・反復横とび・持久走・立ち幅跳びの種目において、全国平均を上回ることができた。16種目中、12種目が全国平均を上回り、実績値は、75%を達成することができた。</p>
	前回評価	

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	A	<p>小学校・中学校ともに、実績値が目標値を上回っている。各学校が継続的かつ計画的に体力向上に取り組むよう指導していることが、実績値の上昇につながっていることから、評価はAとする。</p> <p>都市部であるために運動できる場所が少ないという課題がある中、体力向上の面で学校における指導の役割は大きい。全体の体力の底上げを実現できるように、引き続き、児童生徒の体力向上のため、運動できる環境づくりと、指導体制の充実に取り組んでほしい。</p>
	前回評価	

基本目標Ⅰ 子どもがのびのび学べる環境づくり

指標(10) 高等学校卒業後、大学への進学者の割合				
指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (H32)	教育振興 基本計画 の頁
<p>新市立高等学校の卒業生のうち、大学へ進学した生徒の割合。 新校は、大学への進学を強く推し進めていくことからこの指標を設定した。</p>	<p>現市立高等学校への入学者の進路希望先や保護者の願いが、大学進学であることから設定した。</p>	<p>川口総合高 42.4% 川口高 63.0% 県陽高 55.9% (H28.3)</p>	<p>新市立高等学校 80%以上</p>	<p>48</p>

28 年 度 の 実 施 状 況	
①実施時期	H28. 4. 1～H29. 3. 31
②実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特進クラスの設置 ・ 教育課程を進学型に一部変更 ・ オンデマンド学習の利用 ・ 本市と連携をしている順天堂大学の学生による英語アシスタントの導入 ・ 難関大学の学生チューターを市立3校に導入
③実施結果	<p>平成29年3月 大学進学割合（大学進学者数／卒業生数）</p> <p>川口総合高校 43.2%（104人／241人）</p> <p>川口高校 71.5%（203人／284人）</p> <p>県陽高校 53.2%（83人／156人）</p>

29 年 度 以 降 の 取 り 組 み	
①実施時期	H29. 4. 1～H30. 3. 31
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ オンデマンド学習の利用促進 ・ 個別対応型チューターによる学習支援の導入

集計年度	H28	H29	H30	H31	H32
	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
毎年度	前年度以上を目指す	前年度以上を目指す	(新校開校) 前年度以上を目指す	前年度以上を目指す	新市立高等学校 80%以上
	川口総合高 43.2% 川口高 71.5% 県陽高 53.2%				

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	B	<p>平成28年度は、新校の開校に先駆けて、オンデマンド学習やチューターによる学習支援などを先行導入したところ、前年と比較して大学進学率に大きな変化はなかったが、国公立大学への進学者数が4人から8人に増加したことから施策の効果と捉え、評価結果をBとした。</p> <p>新校では、理数科や特進クラスなど学力向上を牽引するクラスを設置するとともに、普通教室の無線LAN環境など、より充実した教育環境の整備を予定している。引き続き、平成32年度目標値の達成に向けて、学力向上支援の取り組みを進めていく。</p>
	前回評価	

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	B	<p>進学率については、一部前年度の実績値を下回っているが、新たな取り組みにより、国公立大学への進学者数が増加するなど、質の高い学習指導が行われており、目標は概ね達成されているので、評価はBとする。</p> <p>また、進学率だけでなく、生徒が各々の志望校に進学できるかという点も重要である。今後も、それぞれの生徒に合った指導を心がけ、生徒が利活用しやすい学習支援体制を整えていってほしい。</p>
	前回評価	

基本目標Ⅱ 子どもの成長をサポートする基盤づくり

指標(1) 教育研修生「教育指導パワーアップ研修」受講修了者の割合

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (H32)	教育振興 基本計画 の頁
採用2～3年次の若手教員数において教育研修生研修「教育指導パワーアップ研修」受講修了者の割合。経験豊富な教職員の大量退職期に伴う若手教員の増加により、一層の資質向上が必要であることから、この指標を設定した。	初任者研修修了者に対して、継続して研修の機会を確保し、各教科等における指導法や学級経営等の資質向上が必要である。このことから2年次～3年次の間に教育研修生研修「教育指導パワーアップ研修」対象者全員の受講をめざしてこの目標値を設定した。	0%	100% ※ H30初任者のうち、受講修了者の割合	54

2 8 年 度 の 実 施 状 況

①実施時期	7月7日、8月3日、10月21・25・31日、12月19日、2月23日
②実施内容	<p>第1回 7月7日 教育研究所 グループごとの研究のテーマ、方向性についての協議</p> <p>第2回 8月3日 教育研究所 研究協議 グループごとにKJ法の手法を活用しながら研究テーマの達成に向けた手立ての決定</p> <p>第3回 会場校研修(3会場) ①10月21日 前川小(平川教諭・道徳) ②10月25日 小谷場中(栃本教諭・国語) ③10月31日 慈林小(齋藤教諭・体育)</p> <p>第4回 12月19日 教育研究所 グループ協議 (1)研究テーマにもとづいた個人の実践発表 (2)研究のまとめに向けて準備 (3)プレゼン内容の検討</p> <p>第5回 2月23日 並木公民館 (1)グループごとのプレゼン発表 (2)学校共有フォルダを活用しながら、各グループプレゼン資料を作成</p>
③実施結果	<p>受講者57名のうち、アンケートの結果「十分理解できた」が21人(36.8%)「おおむね理解できた」が35人(61.4%)という満足度の高い結果だった。</p> <p>受講者の感想でも、「授業の視点が明確になった」「他の教科の取り組み方がわかって良かった」「自分の実践を通して課題が明確になった」など、充実した研修となった。</p>

2 9 年 度 以 降 の 取 り 組 み

①実施時期	H29.7～H30.2
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	<ul style="list-style-type: none"> ・受講生自らが先輩教員から学級経営についての聞き取りを行ったり、自身の実践を紹介したりするなど、主体的・実践的な研修となるようにさらに運営面に工夫を加える。 ・各自の具体的な実践例をもとに、提案協議の時間を十分に確保し、受講生が日頃感じている問題点等も出し合いながら、協議を進めるようにする。 ・公開授業を通して学級経営の重要性を感得させ、学び合う学級集団づくりとよりよい授業実践を目指す。

集計年度	H28	H29	H30	H31	H32
	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
毎年度	60%	70%	80%	90%	100%
	54%				

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	B	平成28年度の目標値は、2年次教員（106名）の参加率60%とし、実施値は54%（該当教員106名のうち、受講者57名）であった。研修内容については、アンケート結果からも「十分満足できた」「満足できた」を合わせると100%という満足度になっていることから、左記の評価結果とした。平成29年度以降は、2～3年次教員に対する受講者の割合を実績値とし、目標値達成を目指していく。
	前回評価	

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	B	平成28年度は初年度であるため、実績値は、2年次教員の研修参加率のみとなり、目標値を下回っていることから、評価はBとする。 若手教員の育成は、今後の市の教育において非常に重要であると考えているので、全教員が研修を通してスキルアップできるように、研修を受けやすい環境づくりにも努めてほしい。
	前回評価	

基本目標Ⅱ 子どもの成長をサポートする基盤づくり

指標(2) 児童生徒の交通事故発生件数

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (H32)	教育振興 基本計画 の頁
児童生徒の交通事故発生件数。 子どもたちの安心・安全の確保する教育を推進することが、危険予測・危険回避などの安全意識を身に付けられることから、この指標を設定した。	交通安全意識の徹底と啓発に取り組むことにより、交通事故0をめざして、この目標値を設定した。	小学校38件 中学校18件 高等学校2件	小・中・高等学校 0件	58

2 8 年 度 の 実 施 状 況

①実施時期	H28. 4. 1～H29. 3. 31
②実施内容	各学校において児童生徒の発達段階に応じた交通安全指導を実施した。また、小学校全52校で交通安全教室を実施し、横断歩道の渡り方や自転車の乗り方について、中学校においてもスケードストレイトなど、体験を通して交通安全について学習した。さらに、武南警察署及び川口警察署交通課交通係と連携し、川口市教職員研修「交通安全担当者研修会」を開催し、教職員の指導技術の向上を図った。
③実施結果	平成28年度の児童生徒の交通事故発生件数は、小学校31件、中学校10件、高等学校3件で、前年度より14件減少した。

2 9 年 度 以 降 の 取 り 組 み

①実施時期	H29. 4. 1～H30. 3. 31
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	学校における発達段階に応じた安全教育、安全指導の一層の充実を図るとともに、効果のあった実践について紹介するなど教職員研修を充実し、児童生徒の交通事故発生件数ゼロを目指す。

集計年度	H28	H29	H30	H31	H32
	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
毎年度	小学校 38件以下 中学校 18件以下 高等学校 2件以下	小学校 28件以下 中学校 13件以下 高等学校 2件以下	小学校 18件以下 中学校 8件以下 高等学校 1件以下	小学校 8件以下 中学校 4件以下 高等学校 1件以下	小・中・高等学校 0件
	小学校 31件 中学校 10件 高等学校 3件				

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	B	平成28年度の児童生徒の交通事故発生件数は、目標値に対して小学校は7件減、中学校は8件減、高等学校は1件増で、目標値をほぼ達成しているため。
	前回評価	

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	B	交通事故発生件数の実績値は、目標に対して、高等学校では未達成であったが、小・中学校では、現状値よりも減少し、達成できていることから、評価はBとする。 今後も引き続き、交通安全指導に取り組み、着実に改善して行ってほしい。
	前回評価	

基本目標Ⅱ 子どもの成長をサポートする基盤づくり

指標(3) いじめの解消率

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (H32)	教育振興 基本計画 の頁
市内小・中学校におけるいじめの認知件数のうち、認知年度内に解消された件数の割合。いじめが児童生徒にとって重大な事案であり、早期発見・早期対応をし、いじめの解消に努める必要があることから、この指標を選定した。	一人ひとりの児童生徒にとって、明るく安心して学べる学校であるためには、認知したいじめを全て解消することが不可欠であるため、この目標値を設定した。	小学校 100% 中学校 99.2%	小学校 100% 中学校 100%	60

2 8 年 度 の 実 施 状 況

①実施時期	H28. 4. 1～H29. 3. 31
②実施内容	月例の市いじめ調査により、各小中学校におけるいじめの認知件数を毎月集約し、実態把握に努めるとともに、必要に応じて、学校への聞き取りや生徒指導担当指導主事が学校を訪問し、いじめ解消に向けた指導・助言を適時に行い、いじめ解消に向けて各学校を支援した。
③実施結果	平成28年度の市内各学校のいじめ認知件数は、文部科学省より、いじめ防止対策推進法に基づき、機微な事象であってもいじめの疑いのあるものはいじめの認知を早期に行うよう指導があったため、小学校が292件、中学校が183件と前年度に比べ大幅に増加したが、小学校では100%、中学校では99.5%のいじめが、当該年度内に解消した。

2 9 年 度 以 降 の 取 り 組 み

①実施時期	H29. 4. 1～H30. 3. 31
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	市いじめ調査の内容を、いじめの実態や、認知・解消・見届けが、それぞれの事案で正確に把握できるように見直した。また、「川口市いじめを防止するためのまちづくり推進条例」が施行されたことにもない、市内小・中・高等学校全校のいじめ対応教員を対象に研修会を実施し、いじめ対応教員の役割や校内体制、各学校におけるいじめの防止と解消に向けた取り組み等について協議を行い、各学校におけるいじめ防止と解消に向けたさらなる取り組みを推進していく。

集計年度	H28	H29	H30	H31	H32
	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
毎年度	小学校 100% 中学校 100%	小学校 100% 中学校 100%	小学校 100% 中学校 100%	小学校 100% 中学校 100%	小学校 100% 中学校 100%
	小学校100% 中学校99.5%				

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	B	平成28年度の市内各学校のいじめ認知件数は、小学校が292件、中学校が183件であったが、小学校では100%解消し、中学校では99.5%が、当該年度内に解消した。小学校は目標値に達し、中学校も未解消は1件であり、引き続き解消に向けた対応を行っていることから、Bと評価した。
	前回評価	

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	B	小学校では、いじめ解消率が100%であり、目標値に達している。また、中学校でも、解消率は99.5%と高かったが、当該年度内に解消することができなかった案件が1件あった。このことから、目標は概ね達成されており、評価はBとする。
	前回評価	また、生徒や保護者が相談しやすいようにさまざまな相談窓口が整備されており、いじめの防止に向けて、学校と教育委員会が連携して取り組めるような体制が築けている。いじめの防止や解消は難しい課題であるが、今後も改善に向け取り組んでほしい。

基本目標Ⅱ 子どもの成長をサポートする基盤づくり

指標(4) 不登校児童生徒の割合

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (H32)	教育振興 基本計画 の頁
市内小・中学校の児童生徒のうち、一年度内に30日以上欠席した児童生徒（病気や経済的理由による者を除く）の割合。人数による比較よりも、割合で指標を示す方がより効果を検証できることから、この指標を選定した。	不登校の着実な解消を図るために、特に増加率が著しい中学1年生における不登校の割合を減少させることをめざして、この目標値を設定した。	中学1年生 平成25年度 2.69% 平成26年度 2.01%	中学1年生 平成32年度 1.50%	60

2 8 年 度 の 実 施 状 況

①実施時期	平成28年6月～平成29年3月
②実施内容	市内小・中学校において、不登校による欠席日数が30日以上ある児童生徒数（病気・経済的な理由・その他による欠席は除く）並びに不登校傾向にある児童生徒数を、小学校は9月から、中学校は6月から毎月末締めで月例調査を実施した。
③実施結果	平成28年度末における不登校による欠席日数が30日以上ある中学校1年生の生徒数（病気・経済的な理由・その他による欠席は除く）は、95人で中学1年生の全生徒数4,467人に対して2.13%であった。

2 9 年 度 以 降 の 取 り 組 み

①実施時期	平成29年6月～平成30年3月
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	各学校から報告のあった月例不登校調査に基づき、不登校並びに不登校傾向にある児童生徒がおり、生徒指導上の課題がある学校に対して、生徒指導担当指導主事による学校訪問を実施し、指導助言を行っていく。また、学校・市教委双方が不登校児童生徒の状況を共有し、不登校解消に向けた効果的な手立てについて、早い段階で対応することによって、不登校児童生徒の解消に努める。

集計年度	H28	H29	H30	H31	H32
	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
毎年度	中学1年生 平成28年度 2.00%以下	中学1年生 平成29年度 1.88%以下	中学1年生 平成30年度 1.75%以下	中学1年生 平成31年度 1.63%以下	中学1年生 平成32年度 1.50%以下
	中学1年生 平成28年度 2.13%				

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	B	<p>生徒指導担当指導主事による学校訪問を通して、各学校の不登校児童生徒に対する取り組みが、早期に適切に実施されたことによって、不登校児童生徒の割合がほぼ目標値に近い状況となったため。</p>
	前回評価	

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	B	<p>不登校児童生徒の割合において、実績値は目標値をわずかに達成していないことから、評価はBとする。 かつては不登校児童生徒の割合は全国平均よりも高かったが、現在は改善傾向にあるので、今後も、不登校解消に向けて、学校と教育委員会が連携し、問題に早期対応できるような支援体制の充実を期待する。</p>
	前回評価	

基本目標Ⅱ 子どもの成長をサポートする基盤づくり

指標(5) 各学校における「学校応援団平均活動回数」(年間)

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (H32)	教育振興 基本計画 の頁
市内小・中学校の各学校の学校応援団の1校当たり年間の平均活動回数(安心安全見守り活動を除く)。さらなる活動内容の充実が、学校・家庭・地域の教育力の向上につながることから、この指標を設定した。	登下校の見守り活動については、多くの活動回数があり定着しているが、学習支援や地域活動と連携した活動などその他の活動を充実させていく必要がある。年間の授業時数などを考慮し、年間20回程度増やすことをめざして、この目標値を設定した。	小学校 103.7回 中学校 34.1回	小学校 120回 中学校 50回	64

2 8 年 度 の 実 施 状 況

①実施時期	H28. 4. 1～H29. 3. 31
②実施内容	学校応援団リーフレットの配布や学校応援団コーディネーター研修会の開催等を通じて、学校における学習活動、安全確保、環境整備などのボランティアとして保護者や地域住民の参加を促し、各学校で組織されている学校応援団活動の充実を図った。
③実施結果	学校応援団活動(学習活動、環境整備、部活動・クラブ活動、環境教育、体験活動、生徒指導、学校ファームへの支援)の1校あたりの平均活動回数は、小学校が126.9回、中学校が29.3回であった。

2 9 年 度 以 降 の 取 り 組 み

①実施時期	H29. 4. 1～H30. 3. 31
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	特に中学校での活動回数を増やすために、活動を推進する研修会の充実、各学校における活動内容の充実を促す啓発物の作成を行い、平成29年度の目標値である1校あたり平均35回を目指す。

集計年度	H28	H29	H30	H31	H32
	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
毎年度	小学校 120回 中学校 35回	小学校 120回 中学校 35回	小学校 120回 中学校 40回	小学校 120回 中学校 45回	小学校 120回 中学校 50回
	小学校 126.9回 中学校 29.3回				

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	B	<p>小学校では、平成32年度の目標値の120回を上回ることができたが、中学校では、平成27年度の回数をやや下回る結果となったためB評価とする。</p>
	前回評価	
/		

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	B	<p>中学校では目標値を下回っているが、小学校では現状値よりも大幅に増加し、目標値を上回っていることから、目標は概ね達成されており、評価はBとする。</p> <p>学校応援団活動は、地域に根ざした学校となるために効果的な事業であると思うので、今後も推進して行ってほしい。</p>
	前回評価	
/		

基本目標Ⅲ 市民が自己実現をめざせる環境づくり

指標(1) 生涯学習施設の年間利用者数

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (H32)	教育振興 基本計画 の頁
市内公民館及び専門施設の年間利用者数。 今日的課題や市民ニーズに合わせた学習機会の提供とその成果を示すものとしてこの指標を選定した。	年間利用者数を毎年1.12%増加をめざし目標値を設定した。	1,933,416人 ※システム改修後の現状値(H27) 2,376,472人	2,067,034人	70

2 8 年 度 の 実 施 状 況

①実施時期	H28.4.1～H29.3.31
②実施内容	生涯にわたり多くの市民の自発的・主体的な学習活動の拠点として、市内公民館及び専門施設の部屋を提供することで、地域社会における文化の向上や福祉・健康の増進を推進した。 また、魅力ある多種多様な講座・教室を実施することにより、学習機会を提供した。
③実施結果	年間利用者数は、前年度と比較すると82,826人が増加しており、目標値及び増加率1.12%を大きく上回ったことで、地域社会における文化の向上や福祉・健康の増進を推進できたと考えられる。 平成27年度年間利用者数…2,376,472人 平成28年度年間利用者数…2,459,298人

①実施時期	H29.4.1～H30.3.31
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	幅広い年齢層の学習活動できる拠点を提供することはもとより、施設の耐震工事やトイレの洋式化等を推進し、さらなる利用者へのサービス向上に努める。

集計年度	H28	H29	H30	H31	H32
	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
毎年度	1,976,967人 (2,403,088人)	1,999,109人 (2,430,003人)	2,021,499人 (2,457,219人)	2,044,140人 (2,484,740人)	2,067,034人 (2,512,569人)
※ H27のシステム改修に伴い利用者集計方法が変更となったため、H27の利用者数を基準値として、目標値を再設定。 ()内は、毎年1.12%増加した場合の目標値	2,459,298人				

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	A	<p>前年度と比較して3.49%の伸び、82,826人増加したことにより、目標値を大きく上回っているため。</p> <p>多くの市民の自発的・主体的な学習活動の拠点として公民館等を提供することとともに、川口市民大学「ゼロから学ぶ日経平均・外国為替」など魅力ある講座・教室を実施することにより学習機会を提供したことなどが要因として考えられる。</p> <p>なお、平成32年度の目標値は、教育振興基本計画策定時に設定したが、平成27年度から、施設予約システム改修に伴い利用者数集計方法が変わったことにより、今後は、現状の集計方法上での目標値を再設定する必要がある。</p>
	前回評価	

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	A	<p>年間利用者数は、平成27年度の実績値から増加しており、目標値を大きく上回っていることから、評価はAとする。</p> <p>今後も引き続き、老朽化した施設改修等の課題に取り組みながら、生涯学習施設が、地域に根ざした市民活動の拠点であり続けるように、各事業を推進して行ってほしい。</p> <p>また、指標の目標値については、現状の集計方法では相違が生じることから、今後は主管課の提案通り、再設定した目標値を基準に、実績値の推移の評価を行うことが適切と判断する。</p>
	前回評価	

基本目標Ⅲ 市民が自己実現をめざせる環境づくり

指標(2) 公民館及び専門施設の年間講座参加者数

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (H32)	教育振興 基本計画 の頁
市内公民館及び専門施設主催の年間講座参加者数。 今日的課題や市民ニーズに合わせた学習機会の提供とその成果を示すものとしてこの指標を選定した。	年間講座参加者数を、毎年0.175%増加をめざし目標値を設定した。	256,756人	259,000人	70

2 8 年 度 の 実 施 状 況

①実施時期	H28. 4. 1～H29. 3. 31
②実施内容	自己実現をめざす市民の多様な学習・活動意欲の高まりに対応するため、地域の特性や市民の要望を踏まえ、公民館及び専門施設において、川口市民大学「ゼロから学ぶ日系平均・外国為替」や「生きがい講座」など、魅力ある多種多様な講座・教室を実施することにより、一般教養はもとより専門性の高い分野や現代的課題の学習機会を提供した。
③実施結果	公民館及び専門施設において主催した講座・教室および文化祭や他部所との共催事業等の延べ参加者数、事業数（講座数等）。 平成27年度年間講座参加者数…268,489人 事業数（講座数等）…873事業 平成28年度年間講座参加者数…276,909人 事業数（講座数等）…917事業

2 9 年 度 以 降 の 取 り 組 み

①実施時期	H29. 4. 1～H30. 3. 31
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	公民館及び専門施設において、地域での課題や幅広い年齢層の学習ニーズを把握することで、さらに魅力ある多種多様な講座・教室を企画・実施し、主催講座の延べ参加者数の増加に取り組む。

集計年度	H28	H29	H30	H31	H32
	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
毎年度	257,197人	257,647人	258,097人	258,548人	259,000人
	276,909人				

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	A	<p>前年度と比較して3.14%の伸び、8,420人増加したことにより目標値を上回っているため。</p> <p>前年度に比べ44事業（講座等）増えたこと、川口市民大学「ゼロから学ぶ日経平均・外国為替」や「生きがい講座」など受講者に魅力のある講座を企画・実施したこと等が要因として考えられる。</p> <p>実績値が既に目標値を大きく上回っていることから、目標値を改めて設定するよう検討する。</p>
	前回評価	

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	A	<p>実績値が目標値を大幅に上回っており、評価はAとする。</p> <p>川口市民大学では、多種多様な講座を実施しており、市民が充実した学習・文化活動を行うことに大きく貢献している。今後も引き続き、多くの市民に参加してもらえるような魅力ある講座の企画・実施を期待する。</p>
	前回評価	

基本目標Ⅲ 市民が自己実現をめざせる環境づくり

指標(3) 図書館年間利用者数(入館者数)

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (H32)	教育振興 基本計画 の頁
図書館資料貸出数で捉えると閲覧等の場合数値に含まれないため、利用者数(入館者数)とした。	利用者が減少傾向にあるため、過去5年間年平均0.51%減を設定とした。	1,895,301人	1,838,039人	72

28年度の実施状況

- ①実施時期 H28.4.1～H29.3.31
- ②実施内容
図書館が近くにない地区に住んでいる市民の方にご利用いただくために、移動図書館車の定期的な巡回を実施した。なお、移動図書館利用者数は入館者数にはカウントされていない。
- ③実施結果
入館者数1,800,432人、おはなし会参加人数6,805人、移動図書館利用者数4,133人の利用があった。なお、空調設備改修工事のため戸塚図書館を長期にわたり休館した。(平成28年10月17日～平成28年11月16日)

29年度以降の取り組み

- ①実施時期 H29.4.1～H30.3.31
- ②見直し等が必要な事項、また見直した事項
あらゆる世代の方が図書館に興味や感心を持ち、足を運んでくれるような企画・イベントの実施を検討する。

集計年度	H28	H29	H30	H31	H32
	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
毎年度	1,876,018人	1,866,450人	1,856,931人	1,847,461人	1,838,039人
	1,800,432人				

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	B	<p>全国の公共図書館の利用者数は減少している。川口市立図書館においても例外ではないが、おはなし会等の事業の内容を充実させて継続することにより、全国の推移と比較して小幅減少となっている。</p>
	前回評価	

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	B	<p>年間利用者数の実績値は、目標値を下回っているが、全国の公共図書館の利用者数が減少傾向にあることも考慮し、評価はBとする。</p> <p>また、実績値には含まれていないが、移動図書館車の巡回やおはなし会など、多岐にわたる事業が成果をあげており、今後は、それぞれの利用者数の推移もわかるように明記してほしい。</p>
	前回評価	

基本目標Ⅲ 市民が自己実現をめざせる環境づくり

指標(4) 科学館の年間利用者数

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (H32)	教育振興 基本計画 の頁
科学館における科学展示事業・天文台事業・プラネタリウム事業の参加者数、科学出張教室・太陽観測出張授業・夜間出張観望会などの館外事業参加者数。科学への市民の興味・関心を引く事業の充実や、学校との連携・協力による理科教育への支援の成果を示すものとして、この指標を選定した。	科学館の過去5年間の年平均増減率6.9%増の数値を踏まえ、この目標値を設定した。	170,019人	253,725人	74

2 8 年 度 の 実 施 状 況

①実施時期 H28. 4. 1～H29. 3. 31

②実施内容

- ・科学展示事業…実験ショー、身近な素材を使った簡単な科学ものづくりやインストラクター委託によるテーマのあるものづくり・観察実験及び展示解説を実施。また、講義と観察・実験・工作を組み合わせた「夏休み科学教室」や「サイエンスクラブ」等を実施。館外事業では科学出張教室を実施。
- ・天文台事業…屋上の主天文台と副天文台でその日によく見える惑星や月、星雲などを観察する夜間観測会を実施。また副天文台での太陽観測を中心に3つの天文台を案内する天文台ガイドツアーを実施。館外事業では太陽観測出張授業・夜間出張観望会など実施
- ・プラネタリウム事業…一般投影（小学生～一般対象）、キッズアワー（幼児・小学校低学年とその保護者）、学習投影（市内小学校4年生、中学校1年生、幼稚園・保育所）、宇宙の教室（こどもから大人まで学べる天文講座）等を実施。
- ・特別企画事業…館独自の企画立案による手作りの特別展のほか、関連団体からの展示物の借用、テーマに精通した業者への委託を活用し特別企画展を実施。

③実施結果

- ・科学展示事業…科学展示施設入場者73,399人・館内事業参加者数24,619人・館外事業参加者数6,381人
- ・天文台事業…天文台公開参加者数1,040人・太陽観測出張授業1,235人・夜間出張観望会420人
- ・プラネタリウム事業…プラネタリウム観覧者数34,293人
- ・特別企画事業…26,304人

2 9 年 度 以 降 の 取 り 組 み

①実施時期 H29. 4. 1～H30. 3. 31

②見直し等が必要な事項、また見直した事項

展示事業では、利用者のニーズに応えるため老朽化してきている展示装置を更新していく必要があり、今後も展示装置改修事業としての要望を継続しながら、可能な限り更新していきたい。天文台やプラネタリウム事業においては、アンケート調査等を実施するなど市民ニーズを分析するとともに、時節の話題や天文現象などを考慮し事業を進めていく。また、特別企画事業では、館独自の企画・立案をするために、情報収集・研修を十分に行い、利用者の興味を引くテーマの選択など、十分な準備・検討を行い事業を展開していく。今後は、市民ニーズの把握や他館の事業も参考するなど情報収集を行い、事業の充実を図ることで利用者の満足度を高めるとともに、幅広い年齢層の方々が満足できるよう努める必要がある。

集計年度	H28	H29	H30	H31	H32
	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
毎年度	194,291人	207,697人	222,028人	237,348人	253,725人
	167,691人				

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	B	<ul style="list-style-type: none"> ・科学現象の原理原則を学ぶ展示装置や、科学の基礎を学習する科学実験ショーや科学ものづくり教室等を展開し大人から子どもまで楽しみながら学べ、また、学校における授業の一環として効果的に活用された。 ・天文台では実際に望遠鏡をのぞいて天体観測を体験して得られる感動により、天文学や科学全般に対する興味・関心を高めることができた。 ・プラネタリウムにおいては、天文学の普及・科学全般に関する興味関心を高めることができた。また、癒しの場としても活用された。 ・テーマが異なる特別展を実施することで、新たな利用者を獲得できた。また、常設装置では学べない、その時々話題で利用者の満足度を向上させることができた。
	前回評価	

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	B	<p>年間利用者数の実績値は、目標値を下回っているが、学校との連携や科学展示事業など、多様な取り組みも見られることから、評価はBとする。</p> <p>また、実績値と目標値に乖離があるように思われるが、科学館は、児童生徒を初め、市民が科学とふれあう機会を提供できる貴重な場であるので、市民のニーズに対応しながら、利用者数の増加に努めてほしい。</p>
	前回評価	

基本目標Ⅲ 市民が自己実現をめざせる環境づくり

指標(5) スポーツ施設の年間利用者数				
指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (H32)	教育振興 基本計画 の頁
市民のスポーツ・レクリエーションに対するニーズや健康に対する意識も高まっており、スポーツ活性化を促進し、健康・体力づくりやスポーツ人口の拡大を示すものとして、この指標を選定した。	利用者数が増加傾向にあるため、過去5年間年平均1.91%増を設定とした。	2,494,205人	2,794,042人	76

28年度の実施状況

①実施時期	H28.4.1～H29.3.31
②実施内容	利用者の健康・体力づくりやスポーツに対する需要に応え、スポーツ施設を利用者の自主的なスポーツ活動の場として提供する。
③実施結果	現状値の過去5年間年平均1.91%増を設定しているが、施設改修等により施設利用できない期間があったため、目標値より実績値が下回った。 平成27年度体育施設利用人数…2,516,516人 平成28年度体育施設利用人数…2,460,904人

29年度以降の取り組み

①実施時期	H29.4.1～H30.3.31
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	利用者の健康・体力づくりやスポーツに対する需要に応え、今後もスポーツ活動の場として提供していく。また、老朽化した施設の設備等を改修し、利用者が安全・安心に利用できるように施設を維持することは責務であり、その中で、直営施設の指定管理者制度の導入についても検討していく。

集計年度	H28	H29	H30	H31	H32
	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値
毎年度	2,590,394人	2,639,870人	2,690,292人	2,741,676人	2,794,042人
	2,460,904人				

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	B	施設の設備等改修により目標値には達していないが、利用者にスポーツ活動の場を提供することにより、子どもからお年寄りまで幅広い年齢層で利用ができ、世代交流や体力づくりへの意欲向上につながり、川口市のスポーツ推進に貢献することができた。
	前回評価	

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	B	年間利用者数の実績値は、目標値を下回っているが、施設改修等の影響による利用者数の減少などを考慮し、評価はBとする。 今後については、施設の改修等の影響を含め、評価するために、施設改修等による休止施設及び休止期間を明記してほしい。
	前回評価	

基本目標Ⅲ 市民が自己実現をめざせる環境づくり

指標(6) 人材の登録者数

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (H32)	教育振興 基本計画 の頁
文化芸術活動を担う人材の登録者数。 文化芸術活動を支援していくことで、文化芸術への関心や意欲を高め、次世代の人材の育成を示すものとして、この指標を選定した。	文化団体のほか、市内を拠点として文化芸術活動を行っている人材の登録者数の毎年度30人程度の増加させることを目標とした。	864人	1,040人	80

2 8 年 度 の 実 施 状 況

①実施時期	H28. 4. 1～H29. 3. 31
②実施内容	文化芸術に触れる機会の提供として、市内公民館やアートギャラリー・アトリアを活用しジャズやアジア伝統の歌唱法、パフォーマンスによる市民コンサート事業を3回実施。また、8月には文化芸術鑑賞事業として川口総合文化センターで川口市華道連盟の協力のもと、小学生から高校生を対象とした「いけばな教室」を実施した。人材の育成推進として、市内在住・在学の小学生から高校生を対象に7月下旬から8月初旬に青少年ピアノコンクールを実施し、日ごろの練習成果を発表するとともに研鑽意欲を高めることができた。文化団体等の活動支援については、交付金により10月から11月に文化祭を、11月下旬には美術展を実施。文化団体や市民の創作した美術作品の展示や成果発表の場となった。文化団体補助事業では、文化団体の自主的な活動を支援し、市民文化の発展、向上に資した。また、広報の方法として、広報かわぐち、市内公共施設や町内会等へのポスター・チラシの配布、市ホームページ、情報メールにて周知した。
③実施結果	文化祭、美術展において、人材登録者のうちの市内文化団体会員の457人の成果発表や市民の創作美術品の発表など、展示発表することにより文化芸術活動の支援を行い、文化芸術鑑賞事業では、人材登録者の川口市華道連盟の協力のもと、日本伝統文化であるいけばなを通しながら、文化芸術への関心意欲を高め次世代の文化芸術を担う人材を育成することができた。また、青少年ピアノコンクール事業では、実行委員会の審査員や運営委員等として登録者のうち22人に依頼、また、所管する施設アートギャラリー・アトリアでは、文化芸術に関心のボランティア(人材登録者)25人には、自主企画事業におけるワークショップや実技講座等への参加者へのサポートや同じく自主企画事業において全国で文化芸術活動を行うアーティストを募集したところ98人応募、優秀者として選ばれた2人には1年の制作期間を経て翌年の展覧会にて発表の場を設けるなど支援を行った。また、文化団体助成事業において、人材登録者200人が活躍する2文化団体へ活動経費の一部を助成、活動支援を行った。

2 9 年 度 以 降 の 取 り 組 み

①実施時期	H29. 4. 1～H30. 3. 31
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	文化団体等の活動支援や市民の文化芸術に触れる機会の提供として文化祭、美術展を開催しているが、入場者数が平成27年度に比べ横ばいであるため、十分に市民の文化芸術への関心、意欲を高めることができておらず、また次世代の文化芸術活動を担う人材の育成が図られていないため、広報の方法を検討する必要がある。

集計年度	H28	H29	H30	H31	H32
	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
毎年度	894人	894人	940人	990人	1,040人
	791人				

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	B	<p>実績値は目標値の88%であったことから、評価結果はBとしたものの、前年度実績から73人の減少となった。各文化団体に対し、事業活動に対する交付金による支援や文化芸術鑑賞事業等における活動支援などの連携を図っているところであるが、減少の要因としては、文化団体としての活動があったものの、団体を解散、活動そのものを辞めてしまう団体があることによる。「文化団体活動における方向性の違い」から解散、高齢化もありその後活動を辞めてしまったとの理由である。またアートギャラリー・アトリアでワークショップや実技講座などの参加者のサポートをするボランティア制度があるが、このボランティアを登録申請したままでなく、一年更新に見直したことなどの理由により、登録者数が減っている。</p>
	前回評価	

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	B	<p>人材の登録者数は、文化団体の解散等により実績値が現状値より減少し、目標値を下回る結果となったが、目標は概ね達成されていることから、評価はBとする。 今後は、新たに登録フォームを作成するなど、人材の登録方法について検討する必要がある。</p>
	前回評価	

基本目標Ⅲ 市民が自己実現をめざせる環境づくり

指標(7) アートギャラリーの年間利用率

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (H32)	教育振興 基本計画 の頁
<p>アートギャラリースタジオ、展示室A・Bの年間利用率。 アートギャラリーは文化芸術の振興拠点となる施設であり、その成果を示すものとして、この指標を選定した。</p>	<p>アートギャラリースタジオ、展示室A・Bの利用率を現状値より、増加させることを目標とした。</p>	97%	100%	82

2 8 年 度 の 実 施 状 況

①実施時期	H28. 4. 1～H29. 3. 31
②実施内容	<p>広報かわぐち、川口市ホームページ、アトリアホームページ等のメディアを通じ、広く市民に周知し参加を呼びかけた。自主企画事業として、市民を対象に自主企画事業関連ワークショップ等で制作された作品や、その作品ができるまでの過程を追った記録を展示した「型にハマってるワタシたち」他5件、共催事業として、市内小・中・高校の児童・生徒の各校の優秀作品並びに県展覧会出展・入選作品を展示する「川口市小・中・高校硬筆展覧会」他6件、ワークショップとして、小学生を対象に、好きな色をさまざまに混ぜてつくった「色の影」で影の中にどんな自分が見えるか、ちょっと不思議な影絵に挑戦した「色の影で自分を描こう」他9件、実技講座として、高校生以上を対象として、割れた器の欠片を漆でつなぎ合わせ金粉などで装飾し、新たな魅力ある器に蘇らせた「金継ぎ技法入門ー繕いの器」他2件、鑑賞講座として、主に高校生以上を対象に、各地のアート活動を見てきたジャーナリストが「地域とアート」の視点からアートの役割について講義をした「まちに生きるアートー現代アートにおける地域連携の可能性」他3件を実施した。その他、貸しギャラリーとして、建築事務所、個人等で17件の利用があった。</p>
③実施結果	<p>全室共通で、開館日数は365日から休館日71日を差し引いた294日。展示室Aは未利用日が2日あるので利用日数は292日で年間利用率99.3%、展示室Bは、未利用日が14日あるので利用日数は280日で年間利用率95.2%、スタジオは未利用日が13日あるので利用日数は281日で年間利用率95.6%、平均年間利用率は96.7%となった。</p>

2 9 年 度 以 降 の 取 り 組 み

①実施時期	H29. 4. 1～H30. 3. 31
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	<p>自主企画事業、共催事業においては使用する部屋が固定されており、利用率はほぼ100%である。しかし、貸しギャラリーにおいては、展示室Aのみ、展示室Bのみ、展示室AとB、スタジオのみといった利用形態があるので開催期間中にどうしても未使用の部屋が出てくる。貸しギャラリーは利用1年前に申し込みを受け付け、申し込み受け付け後に空き室があった場合、現在はアトリアのホームページのみで再募集をかけているが、今後は川口市ホームページへの掲載等の対応を考えたい。</p>

集計年度	H28	H29	H30	H31	H32
	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
毎年度	97.0%	97.5%	98.0%	99.0%	100%
	96.7%				

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	B	目標値には至っていないが96.7%の年間利用率であるため。
	前回評価	

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	B	年間利用率の実績値は十分に高い数値であるが、目標値が高く設定されていることもあり、目標値を下回っていることから、評価はBとする。 今後についても、さらに利用率が高められるように努めてほしい。
	前回評価	

基本目標Ⅳ 地域におけるさまざまな資源の活用

指標(1) 文化財センター及び分館への年間来館者数

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (H32)	教育振興 基本計画 の頁
文化財の調査・保存や伝統文化などの文化財情報を市民へ発信する場である常設展示・特別展示等において、情報を共有していただいた市民の人数として、この指標を設定した。	平成24年度から26年度3ヵ年の平均来館者数の20%増加を目標とした。	10,413人	14,000人	88

2 8 年 度 の 実 施 状 況

①実施時期	H28. 4. 1～H29. 3. 31
②実施内容	分館（郷土資料館）の企画展開催回数を2回から3回に増やすと共に、本館と館同士が連携した特別展を行い、また、分館（旧田中家住宅）の「国登録有形文化財」登録10周年記念事業等を行うことにより来館者人数の増加を図った。
③実施結果	企画展の開催回数を増加し、施設間連携の特別展を行い、また、分館（旧田中家住宅）の「国登録有形文化財」登録10周年記念事業等を行い来館者人数の増加に努めたことで、目標値である12,500人に対して実績値で15,842人となり、目標値を大きく上回る結果となった。

2 9 年 度 以 降 の 取 り 組 み

①実施時期	H29. 4. 1～H30. 3. 31
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	企画展内容の更なる充実と、館同士の連携した特別展等を行うことにより、更なる来館者人数の増加に努めていく。

集計年度	H28	H29	H30	H31	H32
	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
毎年度	12,500人	12,900人	13,300人	13,700人	14,000人
	15,842人				

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	A	平成28年度の来館者数は、企画展の回数を増やし、施設間連携の特別展を行い、分館（旧田中家住宅）の「国登録有形文化財」登録10周年記念事業等を行ったことにより、目標値よりも実績値が3,000人以上を上回り目標を達成したため、Aとしたもの。
	前回評価	

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	A	企画展開催回数の増加や、施設間連携の特別展の開催などさまざまな工夫をしたことで、来館者数が大幅に増加し、目標値を上回っているため、評価はAとする。 来館者数の多さを維持することは容易ではないが、魅力的な企画展の開催や、子ども入館料の無償化など、児童生徒が訪れやすくするような工夫をし、今後も引き続き、来館者数の増加に努めてほしい。
	前回評価	

基本目標Ⅳ 地域におけるさまざまな資源の活用

指標(2) 古文書・写真等資料の収蔵点数

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (H32)	教育振興 基本計画 の頁
<p>解読・データベース化し活用されていく前提となる、古文書・写真等資料の収蔵(寄贈・寄託)されている数として、この指標を設定した。</p>	<p>今後の古文書等資料収集数はそう多く見込むことができないことから、平成27年9月現在の収蔵点数の116点増加を目標値とした。</p>	88,906点	89,000点	92

2 8 年 度 の 実 施 状 況

①実施時期	H28. 4. 1～H29. 3. 31
②実施内容	<p>新たな古文書の所在状況をめぐる情報に応じて調査を行い、所蔵者の意向を考慮した上で、移管(所蔵者が行政の場合)、寄贈あるいは寄託の手続きを経て収蔵した。平成28年度は、芝支所より旧芝村の行政文書、芝小学校より昭和10・20年代の学校日誌をはじめとする教育資料を移管、そして安行地区の旧家より戦時中の図書の寄贈を受けた。</p>
③実施結果	<p>芝支所からの移管資料27点、芝小学校からの移管資料101点 過年度に資料寄贈を受けた安行地区の旧家からの追加寄贈資料3点 合計131点</p>

2 9 年 度 以 降 の 取 り 組 み

①実施時期	H29. 4. 1～H30. 3. 31
②見直し等が必要な事項、また見直した事項	<p>平成28年度は古文書調査の機会が多く、1年間で平成32年度の目標値に達したため、今後、目標値を再設定する必要があるが、その際、市内に残された未調査の古文書の数は限られていることに配慮しなければならないと思われる。</p>

集計年度	H28	H29	H30	H31	H32
	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
毎年度	88,926点	88,946点	88,966点	88,986点	89,000点
	89,037点				

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	A	<p>平成28年度は収蔵点数もさることながら、本市の形成過程を検討する上で不可欠な旧芝村の行政文書や、戦中、終戦直後の学校教育を明らかにする上で貴重な学校日誌をはじめ、内容的にも重要な資料を収蔵することができた。</p>
	前回評価	

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	A	<p>実績値が目標値を上回っていることから、目標は達成されており、評価はAとする。 しかしながら、実績値は平成32年度の目標値を上回っているため、目標値の再設定が必要であると考えます。 また、今後も引き続き、古文書等の資料収集に努めるとともに、利活用についても検討してほしい。</p>
	前回評価	

基本目標Ⅴ 教育行政経営の基盤強化

指標(1) 新市立高等学校建設における工事日程の進捗率

指標の定義・選定理由	目標値の根拠	現状値 (指標設定時)	目標値 (H32)	教育振興 基本計画 の頁
平成30年度の開校、そして平成33年度の工事完了を目標としているため、この指標を設定した。	平成33年度8月の工事完了に向け、工程どおりに工事を進めていくことが最重要であるため。	8.50%	93%	98

2 8 年 度 の 実 施 状 況

- ①実施時期 H28. 4. 1～H29. 3. 31
- ②実施内容
- ・校舎棟建設工事
 - ・工事監理業務
- ③実施結果
- 平成27年10月より校舎棟の建設工事が開始され、平成29年3月時点で校舎棟5階躯体工事及び内装工事を行っており予定どおりの進捗となっている。

2 9 年 度 以 降 の 取 り 組 み

- ①実施時期 H29. 4. 1～H30. 3. 31
- ②見直し等が必要な事項、また見直した事項
- 建設資材や労務単価の高騰により、建設コスト増が見込まれており、使用部材の検討や発注方法の見直しを実施することで費用の軽減を図りながら、平成33年度の完成に向けて事業を進めていく。

集計年度	H28	H29	H30	H31	H32
	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
毎年度	25.4%	42.3%	59.2%	76.1%	93.0%
	25.4%				

内部評価	評価結果	評価結果の理由
	A	平成30年4月の新市立高等学校の開校に向けた校舎棟の建設工事について、予定どおりの工期で計画が進んでいるため。
	前回評価	

外部評価委員評価	評価結果	外部評価委員のコメント
	A	実績値は目標値を達しており、新市立高等学校の建設工事は、計画通り着実に進んでいるので、評価はAとする。 今後も引き続き、平成30年4月の開校に向け、計画的に事業を進めてほしい。
	前回評価	